



全体会議

分科会報告
意見交換
会議総括

第1分科会報告

実効性のある新型コロナウイルス感染症の
感染防止対策について

川野 幸男

大分県津久見市長



第1分科会の報告をいたします、津久見市長の川野でございます。

第1分科会のテーマは「実効性のある新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について」でございます。

ワクチン接種はかなり進んできたのですが、感染者は増加傾向にあり、新たな変異株の発生も懸念されています。

そういった中で、感染症の感染拡大の影響により、長らく停滞した社会経済活動の復旧・復興は急務とされ、こういった状況を踏まえ、当圏域において、今後の中長期的な感染症の感染防止と社会経済活動の復興を可能にする施策について議論を行いました。

その中では、感染力の強い変異株の発生など、コロナ終息の見通しが立たず、感染状況を見極めながら、感染症対策の好事例を圏域で共有し、アフターコロナを見据えた切れ目のない経済・観光支援策を圏域で実施し、圏域の社会経済活動の復興を目指していくことや、ワクチン接種に係る事務等についても、将来にわたって対応可能な体制のあり方についても今後議論を深めていく必要があります。

意見交換の中では、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の中で、公平公正な取り扱いの難しさや、最前線で業務を行う職員が疲弊してきて

いること、イベント等の開催基準についても、各自治体が苦勞しておりました。

また、新型コロナウイルス感染症の発生から2年半が経過し、これまでの対策について、国や県がしっかりと検証を行い、国・県・市町村が意見交換を行った上で、将来、新たな感染症が発生した際にも、十分な対応ができるようにしておく必要があるのではないか、という意見もございました。

各自治体が対応に苦慮した点や、感染症対策の好事例を圏域で情報共有していき、将来にわたって、この圏域を保持していくということで、まとめるところでございます。

以上でございます。

第2分科会報告

愛媛・大分の強みを活かした交流人口の
拡大に向けた観光施策について

長野 恭紘

大分県別府市長



第2分科会の報告をいたします、別府市長の長野でございます。

第2分科会のテーマは「愛媛・大分の強みを活かした交流人口の拡大に向けた観光施策について」でございます。

第2分科会の趣旨に関しましては、18市町の参画により構成される広範囲圏域全般を、持続可能な活力ある経済圏域とするために、愛媛・大分双方の交流人口の拡大は重要課題とされます。

よって今回、愛媛・大分各地域の特性を活かし、

効果的な観光施策を行うことで、交流人口の拡大につながる、魅力的な圏域の形成を図ることを目的とした議論を行いました。

議論の過程におきましては、各自治体を持つ地域資源を、それぞれの特色を活かす方向で磨き上げをされておられまして、DMOを立ち上げ、観光に対しても独立採算で行っていく方向性を見据え、取り組んでいるところもありました。

いずれにしても、地域資源の磨き上げによる高付加価値化がなされており、観光コンテンツも充実しております。

それをどのように連携、結び付けを具体的にやっていくのか、ということが一番の課題ではないか等の議論がありました。

そのほか、SNSやDXの活用、ターゲットを富裕層に、長期滞在、SDGsなど、様々なキーワードが出てきました。

このような議論を経て、18市町が有する豊かな地域資源について、観光地や食の魅力に加え、サイクリングをはじめとしたアウトドアスポーツなど、あらゆるコンテンツをパッケージ化し、広域的な周遊ルートも新たに構築することで、圏域旅行者のリピーターを増やし、一過性で終わらない圏域相互の交流人口の増加を図る。また、これらの取組について、今後多くの民間事業者の参加を進めることで、中長期的な圏域内経済循環の向上につなげていく。

という内容で、本市を含めまして、佐伯市、臼杵市、豊後大野市、宇和島市、大洲市、松野町の首長間におきまして、今後の目指す方向性について、確認をさせていただいたところでございます。

以上でございます。



別府市宣伝部長
べっぴょん

第3分科会報告

圏域人口100万人のポテンシャルを

活かした圏域経済の活性化について

大城 一郎

愛媛県八幡浜市長



第3分科会の報告をいたします、八幡浜市長の大城でございます。

第3分科会のテーマは「圏域人口100万人のポテンシャルを活かした圏域経済の活性化について」でございます。

第3分科会の趣旨につきましては、人口減少社会にあっても、地域経済を活性化させるためには、圏域の観光資源の魅力向上や特産品の販路拡大は重要課題とされております。

よって、今回、圏域人口100万人を有する自治体間が連携し、より広範囲な観光ルートを創出し、圏域外からの誘客促進を図るとともに、圏域が有する特産品の販路拡大を進めることを目的に議論を行ったところでございます。

この議論の結果、新型コロナウイルス感染症による観光客の消費行動等の変化を的確に捉え、有名観光地を有する圏域の強みを活かし、圏域の観光資源のブランディングを進めていく。

これにより、観光客の増加と滞在期間を延ばし、圏域の消費拡大を図るほか、圏域の特産品をセットにして、大都市圏に情報発信するなど、効果的な販路拡大を図っていく。

これらの取組を効果的に実施するため、関係機関や民間事業者等と連携を強化して、フェリー航路の充実や、豊予海峡ルートなどの新たな事業も

進めていくことで、圏域外から人と資金の一層の流入を促し、将来にわたる圏域経済の活性化を図る、ということで、当市を含めまして、大分市、竹田市、由布市、日出町、内子町の首長間におきまして、今後の目指す方向性について確認をしたところであります。

議論の過程におきまして、今までに内子町と臼杵市、高千穂町との間で連携して誘客を図るため、自転車を使ったモニターツアーを実施されたそうです。その成果ですが、今まで見えていなかった改善点や新たな課題が把握できたとのことでした。

愛媛県内におきましては、愛媛県全体で、サイクリングイベントが浸透してきておりまして、これも九州と四国をまたがったイベントにすることで、今後、誘客手法として有効ではないかと話があったところであります。

また、九州・四国のそれぞれの市・町でイベントが開催される場合に、2つの空港を使って首都圏から来てもらう。例えば、八幡浜でマーマレードの世界大会をする場合に、大分空港に来ていただいて、別府市、或いは臼杵市、大分市の佐賀関からフェリーで八幡浜に入ってもらおう。そして帰りは松山空港からそれぞれの都市に帰っていただく。反対に、松山空港に来ていただいて、フェリーを活用して大分空港から帰っていただく。そういった2地点の空港を使って、旅行するような商品を積極的にこちらから提案していく。そういったことも、有効な手法ではないかという話も出たところであります。

それと、道の駅ならぬ「空の駅」という資料も配布させていただきましたが、現在、全国で道の駅は1,000を超えるほどできております。その道の駅にスカイポートやヘリポートを設置していき、空の駅を作ったら非常に良いのではないか、というようなことも話題に上がりましたので、この場にいる皆様に提案をしていきたいと思えます。

また、圏域外から人を呼び込む上で最も重要なものが、交通インフラであります。交通アクセスが

悪いところでは、どうしても外から人を呼び込みづらいという課題があります。八幡浜市におきましては、フェリーターミナルが新しくなりまして、利用者の利便性の向上と観光客のより一層の誘客が見込まれております。

令和4年6月23日に、新造船であります「れいめい丸」が別府航路に就航いたしまして、航路を活かした観光施策はもとより、人・物の流れが加速していくものと考え、期待しているところでございます。

今後も、既存のインフラを保持していくとともに、交通アクセスのよりよい向上を目指していくことで、圏域外から人を呼び込みやすくしていく必要があるということも、強く認識したところであります。また、ハード面だけではなく、ソフト面の両方を活かしていくことも、人を呼び込む上で大事であると痛感したところであります。

以上でございます。



“はまぼん”

八幡浜市：八幡浜ちゃんぼんPRキャラクター

八幡浜から熊本までの
新たな周遊ルートについて

中野 五郎
大分県臼杵市長



四国とのお付き合いにつきまして、具体的には八幡浜市と人事交流を行っております、主に商工観光関係の仕事をしなが、それぞれ交流促進につながるような取組を行っております。

また、八幡浜市のフェリーターミナルの竣工式に私も行ったのですが、すばらしいものができておりますし、今後もフェリー航路を活用した交流をしていきたいと考えております。

大分県内の東九州自動車道におきましても、大分市の宮河内ICから臼杵市の臼杵ICまでの4車線化について着工されておりますし、中九州自動車道も、県内では竹田市から豊後大野市の犬飼まで来ておまして、東九州自動車道と中九州自動車道の接続についても、国が調査を始めたところでございます。

この道路がつながることで、臼杵から熊本まで抜けていくことができるようになり、様々な意味で交流ができるようになると考えております。

そして、八幡浜フェリーを起点とすることで、様々な形で交流が深まっていくのではないかと期待しながら、そのような取組を皆様と行っていきたいと考えております。

航路・道路に加える空路について

岡原 文彰
愛媛県宇和島市長



先ほど、八幡浜市長からお話がありましたが、空の駅の配布資料に本市で実際に行われた案件が記載されております。

ゴールデンウィーク期間を利用いたしまして、1日目には、災害対応を想定した共助教育として、鬼北町、松野町、愛南町の皆様のお力添えもいただきながら、ヘリコプターの訓練飛行ルートについて確認をいたしました。

そして、2日目には、ヘリコプター挙式イベントを行いました。横浜の方では、実際に数例の実績があるそうです。

3日目と4日目では、分科会でもお話しいたしましたが、「伊達なうわじまお城まつり」のイベントとして、ヘリコプターの遊覧飛行を実施し、2日間で429名にご参加いただきました。

小さな街に2日間ヘリコプターが飛び回り、非常に大きな反響がありました。

ヘリコプターは大きな空港や滑走路を有さずとも飛行することが可能であり、宇和島市においてもヘリポートの設置を新たに考える中で、こういったコンテンツやハード整備も含めて、地域とつながっていったらと考えております。

また、フェリー運営会社の方が、宇和島から大分の方へ様々な道がつながっていくんだ、ということをおっしゃいました。私もこのような経験から、空の駅を含む交通アクセスの向上は一つの地域課題解決の手法であると感じているところでございます。

「四国8の字ネットワーク」の早期整備を

川野 幸男

大分県津久見市長



東九州自動車道が福岡から宮崎まで全線開通し、九州を一周する高速道路がつながりました。

四国の方では、「四国8の字ネットワーク」が、まだ宇和島市の少し先までで、そこから南の方はつながっておりません。

そこがつながることで、九州側から見ても、八幡浜に降りて、南に行く、東に行くなど、選択肢が増えるため、8の字で四国がつながるということは、愛媛だけでなく、大分側としても重要なことではないかと思っています。

本日こうやって皆様がお越しになっていますから、高速道路の整備を早く進めていくためにはどのようにしたら良いのか、ということも今後頭に入れて、首長同士だけではなく、事務局の方でも議論していただきたいと思えます。



津久見市キャラクター「つくみん」

「四国8の字ネットワーク」もようやく

清水 雅文

愛媛県愛南町長



「四国8の字ネットワーク」は、愛媛県内では宇和島市から南の方のみが未整備となっております。愛南町としましても、早く高知県、四万十市の方にもつながって欲しいと切に願っているところです。

しかし、高速道路は国家事業でございまして、ようやく宇和島市まで高速道路がきました。そして「四国8の字ネットワーク」も、四国の太平洋沿岸部分の一部を残すだけとなり、ようやくここまで進んできました。この8の字ネットワークの完成を多くの皆様が望まれ、ご尽力いただいている賜物と思っております。

高速道路の重要性について

岡原 文彰

愛媛県宇和島市長



今、愛南町長がおっしゃいましたように、多くの方々のお力添えをいただきながら、令和3年度

末に2区間の事業決定がなされましたが、まだその2区間に挟まれた1区間が残っています。その他にも、県内では4車線化等の未着手区間が残ってはおりますが、やはりこうして高速道路がつながることが、観光振興ももちろんでございしますが、災害等有事の際にも必要になってまいります。平成30年7月豪雨災害の際も、高速道路が被災せず生き残っていたからこそ、支援物資の輸送を受けることができ、そして、自衛隊の方々を含む多くの方々が来ていただきました。私自身も、高速道路のありがたみを身をもって知った人間の一人でございます。長い目で見ても、高速道路がつながっていくことが必要であると思います。

また、八幡浜市の高規格道路も事業決定されておりますが、このような新たな国土軸という観点から、構想をつなげていくことが大変重要と思っております。九州と四国をつなげていくためにも、まずは四国のネットワークをつなげるために、皆様にご尽力いただけたら、今後更なる力になると思われまします。津久見市長におかれましては、ご提案いただき、ありがとうございました。

「大洲・八幡浜自動車道」の早期整備を

大城 一郎

愛媛県八幡浜市長



愛媛県で11市ある中で、高速道路が通っていないのが八幡浜市だけです。

高速道路に接続する高規格道路「大洲・八幡浜自動車道」を早く整備したいと願っております。

この事業を推進するために、シンポジウムも開催させていただきましたが、その折には、フェリーでつながっている白杵市長、別府市長にもご協力

いただいて、「大洲・八幡浜自動車道」がいち早くできることが、別府市・白杵市にとっても有益なことであると、シンポジウムで発信していただきました。

このことについて大変ありがたく思っております。着実に事業は進んでおります。

このように、九州の方が四国の道を応援していただくのは、大変ありがたいと思いますので、今後とも連携を深めていきたいと思っております。

夢を現実に

高門 清彦

愛媛県伊方町長



現実的にはもう前を向いて進んでいる高速道路の話がありましたが、我々は夢の話ですが「豊予海峡ルート」これを是非、実現したいと思っております。

大分市長には大変、リードしていただいて、ありがたいと思っております。九州と四国、それぞれ連携を図りながら、このルートの推進にも力添えをいただけたら、大変ありがたいと思っております。



伊方町イメージキャラクター

サワビト

チビサワビト

リンクからネットワークへ

佐藤 樹一郎

大分県大分市長



“たかもん”

“たかもも”

大分市高崎山PRキャラクター

国土交通省では「リンクからネットワークへ」と言っておりますので、リンク同士をつなげていきネットワークにして、そして、伊方町長がおっしゃったように、ネットワークとネットワークをつなげていく、九州の高速道路のネットワークと四国の高速道路のネットワークがつながっていく、そういうところを目指して、是非、皆様と力を合わせて、お互いに応援し合うことは大変大事なことだと思います。

それでは、お時間も迫ってまいりましたので、意見交換を終了したいと思います。皆様有意義なご意見をいただき、ありがとうございました。



サミット会場入口の各市町観光PRコーナー



愛媛県と大分県の自治体間の交流について

本日、「愛媛・大分交流市町村連絡会議 首長サミット」を開催し、圏域が目指す方向性等について次のとおり確認した。

1 圏域の今後の方向性について

両圏域の交流人口の拡大に加え、圏域外からの観光客増加を図るなど、将来にわたり自立可能な圏域経済の形成を目指す。このため、全市町が引き続き連携してコロナリスクも見据えた交流促進事業に取り組んでいくことを確認した。

2 第1分科会 実効性のある新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について

感染力の強い変異株の発生など、新型コロナウイルス感染症の終息はいまだ見通しが立っていない。こうした中、状況を見極めながら感染症対策の好事例を圏域で共有し、アフターコロナを見据えた切れ目のない経済・観光等支援策を圏域で実施し、圏域の社会経済活動の復興を目指す。

またワクチン接種に係る事務等についても、将来にわたり対応可能な体制のあり方について今後議論を深めていく。

3 第2分科会 愛媛・大分の強みを活かした交流人口の拡大に向けた観光施策について

18市町が有する豊かな地域資源について、観光地や食の魅力に加え、サイクリングをはじめとしたアウトドアスポーツなどあらゆるコンテンツをパッケージ化し、広域的な周遊ルートも新たに構築することで、圏域旅行者のリピーターを増やし、一過性で終わらない圏域相互の交流人口の増加を図る。

また、これらの取組について、今後多くの民間事業者の参加を進めることで、中長期的な圏域内経済循環の向上につなげていく。

4 第3分科会 圏域人口100万人のポテンシャルを活かした圏域経済の活性化について

新型コロナウイルス感染症による観光客の消費行動等の変化を的確に捉え、有名観光地を有する圏域の強みを活かし、圏域の観光資源のブランディングを進める。

これにより、観光客の増加と滞在期間を延ばし、圏域の消費拡大を図るほか、圏域の特産品をセットにして大都市圏に情報発信するなど、効果的な販路拡大も図る。

これらの取組を効果的に実施するため、関係機関や民間事業者等と連携を強化し、フェリー航路の充実や、豊予海峡ルートなど新たな事業も進めることで、圏域外から人と資金の一層の流入を促し、将来にわたる圏域経済の活性化を図る。

取組事業

令和2年度取組事業

愛媛・大分交流市町村連絡会議が正式に発足した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、県をまたぐ移動を伴う相互交流事業が中止となったものの、愛媛・大分の地域の魅力を広報誌に相互掲載したほか、WEB形式での首長サミットを開催し、両圏域の更なる交流促進に向けて連携することを確認した。

【経過】

年月日	内容
R2.5.29	愛媛・大分交流市町村連絡会議 発足（書面）
R2.10.30	第1回愛媛・大分交流市町村連絡会議（八幡浜市）
R2.12～	広報誌の相互掲載 開始
R3.2.2	愛媛・大分交流市町村連絡会議 首長サミット（WEB）

愛媛・大分交流市町村連絡会議首長サミット



Vol.1 | 八幡浜市編

愛媛・大分交流 市町村コラボ企画

豊平交流

愛媛・大分両県の自治体同士で互いの地域の魅力を紹介し合う取り組みを行っています。豊子海蔵を採んだ海の向こうを目指していきましょう！（次号は大分県です）

愛媛県八幡浜市です！

海・山・ひと 活気あふれる港まち八幡浜

八幡浜ってどんなところ？

八幡浜は歴史ある町なの？

八幡浜の特産品って何？

【お問い合わせ】八幡浜市政策推進課 ☎0894-22-3111（内線1343）

大分市広報誌：令和2年12月1日号

令和3年度取組事業

令和3年度は延期になっていた東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、観光需要の喚起も見込まれていたが、再度の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、県をまたぐ移動を伴う相互交流事業は中止となった。

しかしながら、令和2度に引き続き広報誌の相互掲載を実施したほか、道の駅等連携事業を開始した。令和4年2月には、2回目となる首長サミットを開催する予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和4年度に延期することとした。

【経過】

年月日	内容
R2.12～	広報誌の相互掲載 継続（～R4.3）
R3.4.26	商工観光部会 発足（書面）
R3.5.16	第1回商工観光部会（書面）
R3.5.28	第1回愛媛・大分交流市町村連絡会議（WEB）
R3.10.12	第2回商工観光部会（WEB）
R3.10.15	第2回愛媛・大分交流市町村連絡会議（八幡浜市）

Vol.12 | 徳島県

愛媛・大分交流 市町村コラボ企画

豊平交流

この月は、愛媛・大分の交流事業をご紹介します。

道の駅等連携事業

商工観光部会が取り組んでいる「道の駅等連携事業」と「広報誌の相互掲載」をコラボした。愛媛県の特産品の情報を大分県へ、大分県の特産品の情報を愛媛県へ、お互いに魅力発信を行った。

愛媛・大分交流市町村 コラボ企画 ~豊子交流~

道の駅等連携事業

イチ押し 大分の特産品（一部）を紹介します！

大分市広報誌（令和3年11月1日号）

愛媛・大分交流 市町村コラボ企画

道の駅等連携事業 × 広報誌の相互掲載

● 2021.11 広報徳島 鬼北町広報誌（令和3年11月1日号）

令和4年度取組予定事業（幹事会）

◆地域おこし協力隊交流事業

会員市町でユニークな取組をしている地域おこし協力隊の活動内容などの情報を相互に共有し、隊員同士が県を越えて交流する機会を創出する。

- ◎協力隊同士の交流会を企画
- ◎会員市町のうちの1か所に隊員が集まり、交流会を開催

◆愛媛大分郷土料理の学校給食体験事業

圏域内の小中学生等を対象に、愛媛・大分の特産品や地産地消を活かした郷土料理など、学校給食を通じて食育の機会を提供することで、食文化の相互理解の推進を図ることを目的とする。

- ◎郷土料理のレシピの交換
- ◎給食日よりなどでその料理の紹介を行う。



佐伯市の給食で出された八幡浜ちゃんぽん

【継続事業】

◆令和4年度 首長サミット

- ◎令和4年7月14日

◆サイクリング姉妹都市の相互PR事業

- ◎YufuinRide（由布市）
- ◎サイクリング佐田岬（伊方町、八幡浜市）
- ◎ツール・ド・ひじかわ（大洲市）
- ◎サイクリング in 四国西予ジオパーク（西予市）
- ◎OITA サイクルフェス（大分市）

◆内子町伝統芸能祭り

- ◎文化交流

◆特産品魅力発信イベント

圏域自治体のイベントにおいて、参加自治体が一堂に会する特産品販売ブースを設けることで、圏域の一体的な食等の魅力発信を行い、より効果的な特産品販売の裾野拡大と、食等の魅力を誘因とする両県の交流人口の増加を図り、圏域経済の活性化につなげるもの。

- ◎令和4年8月6日 大分駅前広場



取 組 事 業

◆相互交流事業（農泊・スポーツ交流）

スポーツ文化の気運を広域的に醸成し、農山漁村地域の伝統的な生活体験と地域の人々との交流を楽しみ、それぞれの土地の魅力を味わい、活気のある魅力的な圏域の形成を図る。

◎時 期 令和4年7月30・31日

◎場 所 農村体験・・・由布市
スポーツ交流・・・大分市

◎対 象 小学4～6年生21名
(愛媛県側13名 大分県側8名)



令和4年度取組予定事業（商工観光部会）

◆愛媛大分相互観光促進事業

愛媛と大分の相互観光の促進を図るため、宿泊施設や現地で体験できる観光メニュー等の情報発信を行う専用サイトを設立する。

◎相互観光の促進

◆旅行気分小包セットお取り寄せ事業

コロナ禍により県をまたぐ移動が制限される中でも楽しむことができるよう、各道の駅等で取り扱う特産品のお取り寄せ販売情報を、ホームページ等を通じて発信し、直接購入申し込みできるようにする。

◎道の駅等連携事業との相乗効果

◆道の駅等連携事業

愛媛・大分の特産品等をお互いの道の駅等で販売し合うことで、それぞれの道の駅等の魅力のPRにつなげるとともに、交流人口の増加を目指す。

◆愛媛大分周遊サイクルスタンプラリー事業

愛媛大分圏域にチェックポイントを設定し、自転車で周遊するスタンプラリーを開催する。また、周遊したポイントによって特産品等を贈呈する。

◎サイクリング姉妹都市の相互PR事業との相乗効果

◆スタンプラリー事業

各市町の観光地を巡るスタンプラリーを開催し、圏域への観光客の呼び込みや、相互交流の促進を図る。また、周遊を促すイベントの開催により、各県の1地域だけでなく、複数の地域へ足を運んでもらうきっかけとする。

